

留萌管内藻場(増殖場)造成事業

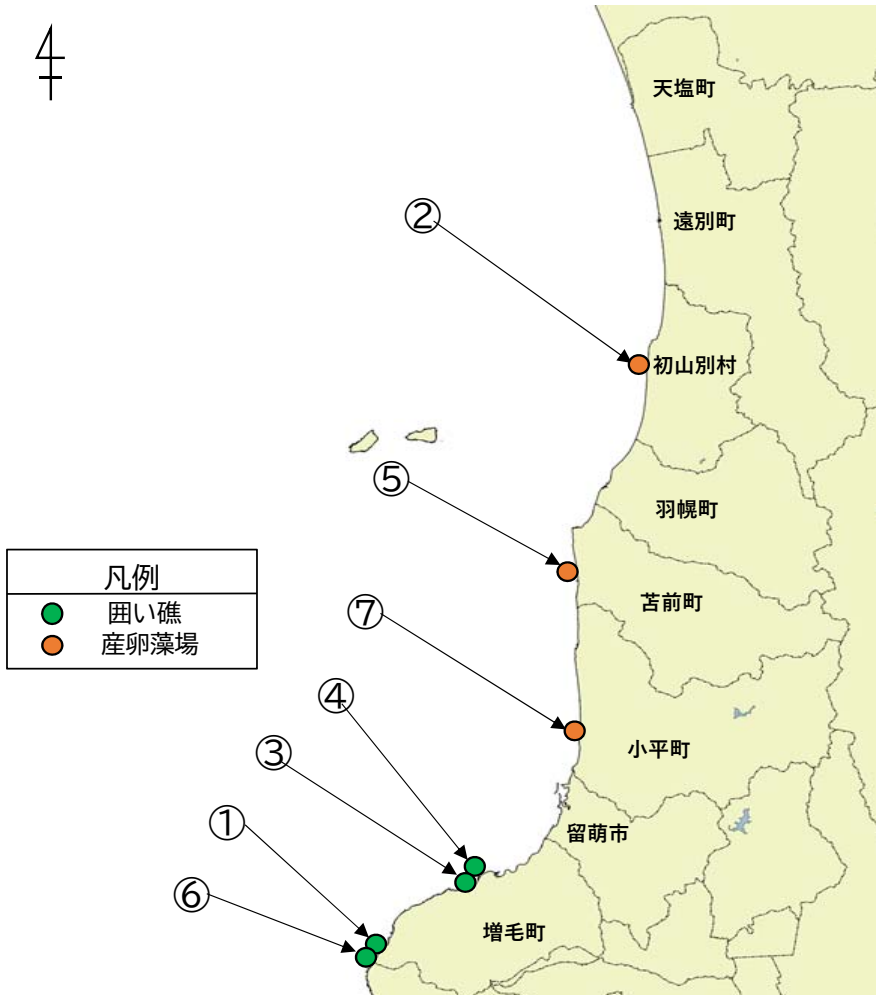
留萌振興局産業振興部水産課

留萌管内藻場(増殖場)造成事業一覧 (過去10年間)

No.	漁場名	工種	対象	事業量	事業年度
①	増毛岩尾増殖場	囲い礁	コンブ類	0.67h	H24～H25
②	初山別みさき増殖場	産卵藻場	フシスジモク モク類	0.76h	H27～H28
③	増毛津田屋増殖場	囲い礁	コンブ類	0.62h	H27～H28
④	増毛古茶内増殖場	囲い礁	コンブ類	1.97h	H28～R2
⑤	苫前豊浦増殖場	産卵藻場	フシスジモク モク類	0.80h	H28～R1
⑥	増毛雄冬岬増殖場	囲い礁	コンブ類	0.58h	R2～R3
⑦	花岡地先増殖場	産卵藻場	フシスジモク モク類	0.80h (0.32h)	R4～R5

留萌管内藻場(増殖場)事業 (位置図)

4
+

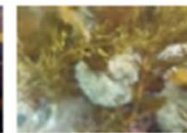


留萌管内の藻場の状況 石狩湾周辺海域藻場ビジョンより

藻場の役割



ソイ類等稚魚の生育場

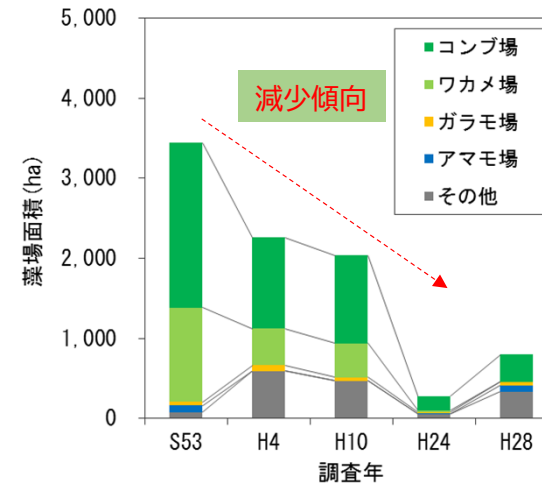


ハタハタやニシンの産卵場



ウニ類等への餌料供給場

藻場面積の変化



藻場衰退の原因

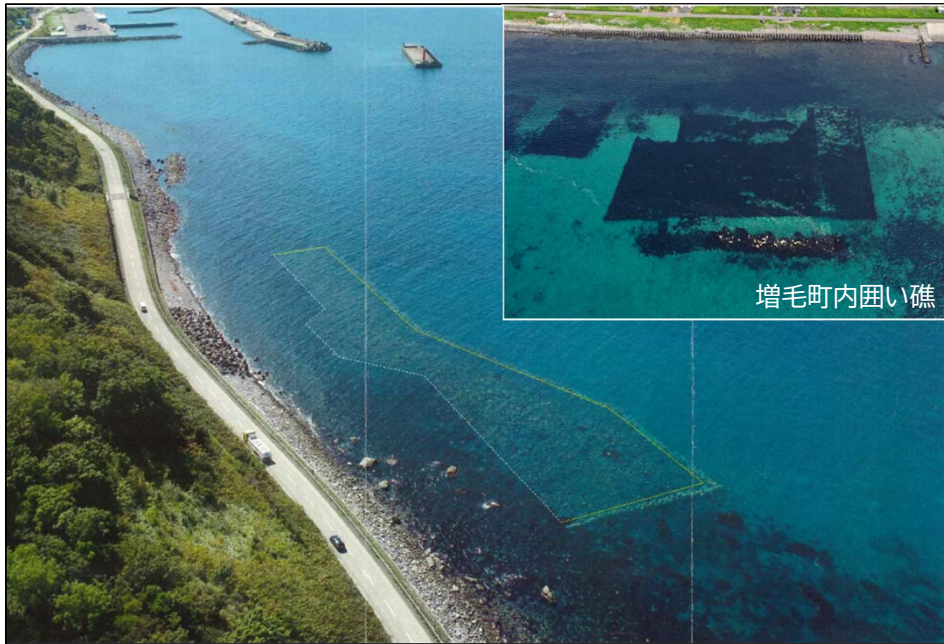


藻場造成～囲い礁

囲い礁

・自然石（大割石（300kg以上））の石材を、砂や小石など海藻が生えない海底に設置し、石材が動かないようにその周りをコンクリート製のブロックで囲った施設

主にコンブ類



R3 増毛雄冬岬増殖場



R3 増毛雄冬岬増殖場造成工事

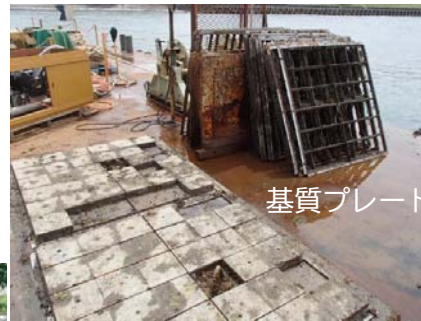
藻場造成～産卵藻場

産卵藻場(アルガベース)

・モク類(フシスジモク)の藻場造成を目的とした施設。砂礫などでも配置できる三脚構造となっており、表面はモク類などの海藻類が多く定着出来るよう、着生面積が大きくなっている

主にモク類(フシスジモク)

○基質移設法～天然のモク類群落に基質プレート配置し、天然採苗を行う。基質プレートを着定基質(アルガベースI型)に移設し、藻場造成箇所へ設置する。(初山別みさき増殖場・苫前豊浦増殖場)



基質プレート



基質プレートに
着生したモク類



アルガベースI型
基質プレート

初山別みさき増殖場造成工事

○モアシス(幼体移植式藻場造成)～藻場造成をおこなう地先周辺において採集した海藻の種を採り、培養技術により移植用幼体を育て、幼体を基質チップに取り付け、着定基質(アルガベースI型)に取り付け藻場造成箇所へ設置する。(花岡地先増殖場)



モアシス



幼体をチップ



アルガベースI型
モアシス

花岡地先増殖場造成工事



藻場造成～カルベース付きFP1.5G

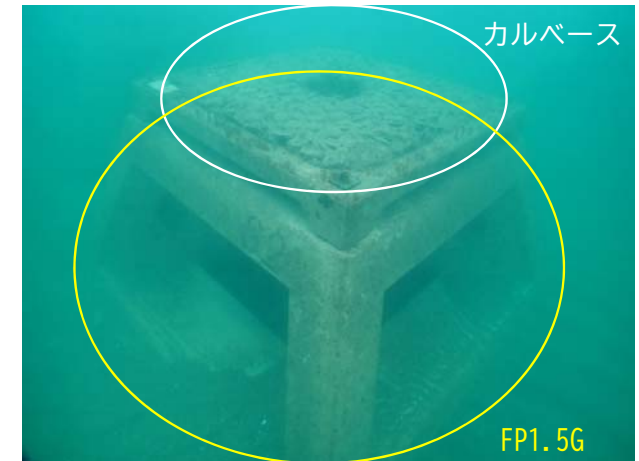
カルベース付きFP1.5G

FP1.5G（浅海域の増殖場、魚礁漁場造成用）

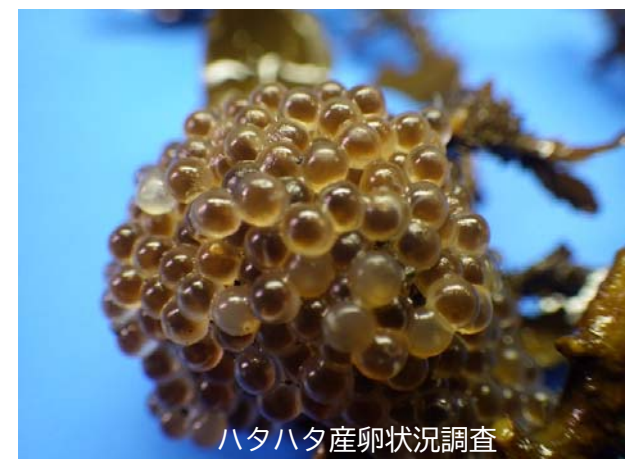
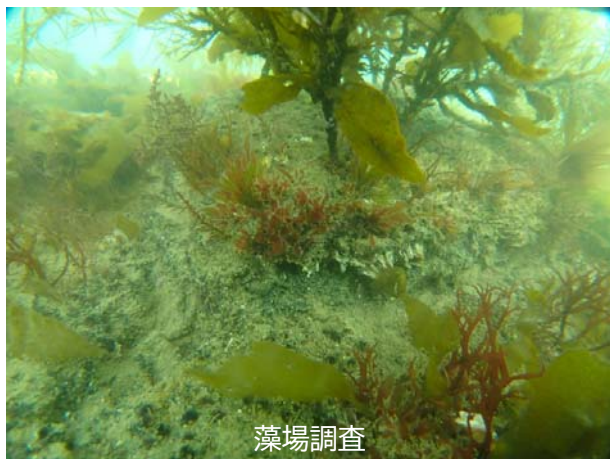
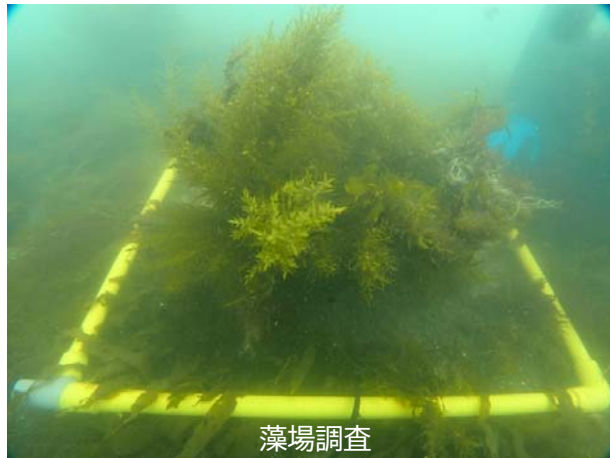
・浅海域の増殖場、魚礁。浅海および波浪条件の厳しい海域に対応できるように重心が低く、耐波性を高めた形状。
魚類の蛸集効果とともに餌料生物の着生による増殖効果、幼稚仔魚の生育の場となる保護礁としても期待できる。

カルベース

・天然再生資源（ホタテ、カキを現地調達）とコンクリート融合させた素材。表面粗度の高い複雑な構造のため、海藻の胞子や卵の付着を促進し藻場造成の基質となる。



石狩湾周辺地区初山別みさき増殖場生物調査 (H30)



平成30年度 初山別みさき増殖場生物調査より